

# 交通整備で魅力増す中北部、南部では新たな用地整備も 京都府

## 交通アクセスの充実で繋がる多彩な魅力と資源

京都府は今、北から南までの豊かな自然や長い歴史に育まれた府域の魅力「海の京都（北部）」「森の京都（中部）」「お茶の京都（南部）」「竹の里・乙訓（京都市近郊）」として発信している。観光だけでなく、産業活動や生活の場としての各地域の魅力を高め、より身近なものとしているのが、近年の交通整備の進展だ。2014年4月に新名神高速道路の城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC間が開通し、府南部の高速道路のミッシングリンクが解消。府の背骨となる重要な高速道路軸が一本に繋がりと、府最北の京丹後市から最南の木津川市までの140kmが2時間足らずで結ばれたことで、関西文化学術研究都市と中北部地域の工業団地や、近畿圏で唯一の日本海側拠点港の京都舞鶴港とのアクセスが飛躍的に向上した。

京都府では、府営工業団地等のほか、土地区画整理事業、民間開発事業などにより、企業立地に関する様々な企業ニーズにこたえることが可能。南部ではいくつかの新しい整備計画が始動している。



### ■京都府のデータ

面積：4,612km<sup>2</sup>  
 人口：2,598,643人（2018年1月1日現在・推計人口）  
 府庁所在地：〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町  
 TEL：075-451-8111（代）  
 ホームページURL：http://www.pref.kyoto.jp/

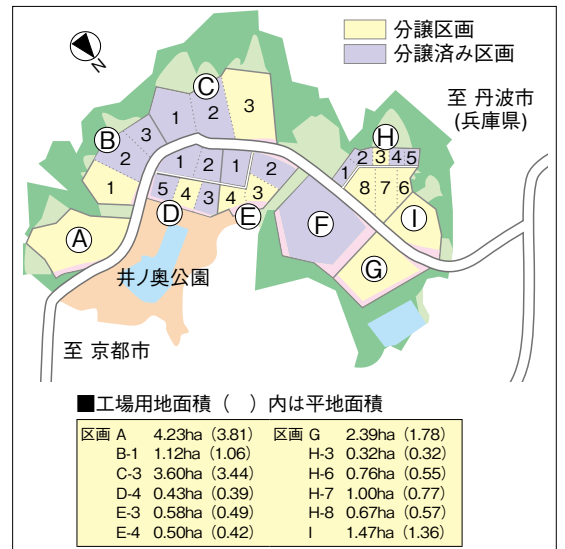
## 北近畿の一大産業拠点の一角を形成する工業団地 —「長田野工業団地アネックス京都三和」—

福知山市にある「長田野工業団地アネックス京都三和」は、近接する長田野工業団地や綾部工業団地等との連携で、北近畿の一大産業拠点の一角を形成する府営工業団地だ。工業用地は30.9haで、小区画（0.3ha）から大区画

（5.2ha）まで多様な区画を用意。舞鶴若狭自動車道の福知山ICまで約10分、京都縦貫自動車道京丹波みずほICまで約20分、JR福知山駅まで車で約20分。京阪神のほか、中国・北陸地方へもアクセスできる点が強みだ。

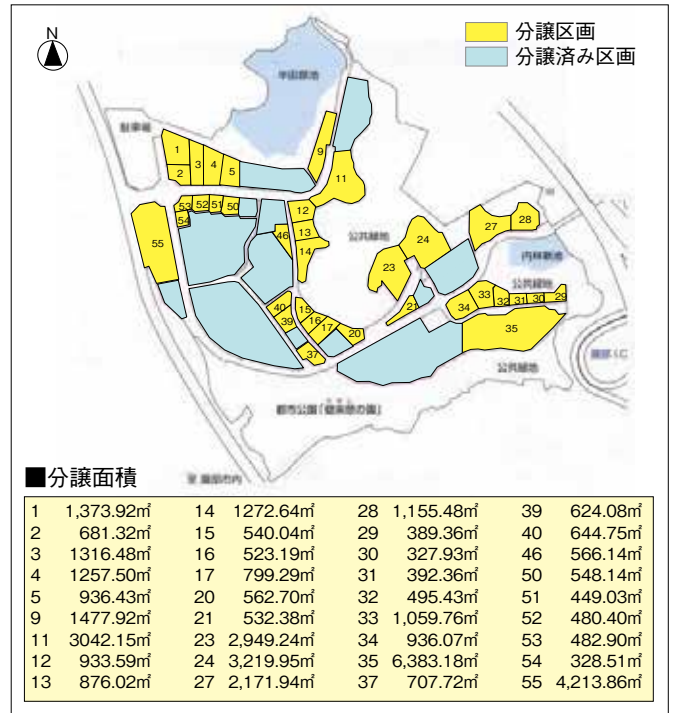


舞鶴若狭自動車道福知山ICまで約10分  
 JR福知山駅まで車で約20分  
 京阪神へ1時間台



**新しい“ものづくり”を推進する産業拠点  
—「京都新光悦村」—**

南丹市にある「京都新光悦村（約23ha）」は、伝統と先端の融合をコンセプトに、新しい“ものづくり”を推進する府営の産業拠点。最寄りのJR園部駅から京都駅までは30分強、また京都縦貫自動車道園部ICに隣接しているため、車で京都市内まで約33分、大阪市内まで約55分でアクセスが可能。優れた交通アクセスと充実の優遇制度で企業の事業活動を支援している。



**南部地域で新しい整備計画が進行中  
—「城陽市東部丘陵地」—**

「城陽市東部丘陵地（420ha）」では、長池地区（27ha）と青谷地区（41ha）の2つの先行整備地区について、新名神高速道路が全線供用される2023年度に向けて整備が進められている。両地区は2016年度に市街化区域に編入さ

れ、長池地区にはプレミアムアウトレット（三菱地所グループ）の進出計画が大きく前進、青谷地区では物流関係企業の誘致を予定。また新名神高速道路に城陽スマートIC（仮称）の整備が決定、地域の魅力が高まっている。



**整備事業が本格化 —関西文化学術研究都市「南田辺・狛田地区」—**

京都府による農業関連研究施設と同志社大学の一部キャンパスが立地している「南田辺・狛田地区（約230ha）」の整備事業が本格化する。近年、施設立地が急速に進み、基盤整備が完了した産業用地が少なくなっているため、関西文化学術研究都市の成果・集積との機能連携、相乗効果が期待できる施設の誘致を図るための基盤整備を行う予定だ。エリア内に京奈和自動車道の精華下狛ICがあるアクセスの良さが魅力。将来、北陸新幹線の駅が近くに整備されることが決まり、注目が高まっている。



## 多彩な企業が集積するまち —京都市—

京都市は、伝統・文化、芸術都市や観光都市としての顔をもつ一方、日本を代表する「ものづくり都市」でもあり、伝統から先端産業、中小・ベンチャーから世界で活躍する大企業まで多彩な企業が集積している。また、39の大学・短期大学に加え各種研究所が多く立地し、産学公連携の取組が盛んである。市西部の京都大学桂キャンパスに隣接する「桂イノベーションパーク」には、独立行政法人中小機構基盤整備機構が運営する「京大桂ベンチャープラザ」があり、大学の研究成果を活用したビジネスに挑戦する中小・ベンチャー企業が入居している。市中心部の「京都リサーチパーク」は、民間主導の都市型産業創造・育成拠点であり、ICTや医療・バイオ、ナノテクなど、多彩な企業や公的機関等が集積している。



## 市南部の産業集積拠点 —「らくなん進都」・「横大路地区」—

南部には、ものづくり企業を支える産業集積拠点として、京都市が企業集積に力をいれている「らくなん進都」や「横大路地区」がある。「らくなん進都」は、JR京都駅の南側に位置し、南北約6km、面積約607haに及ぶ広大な地域だ。中央に阪神高速8号京都線が通るほか、地下鉄の利用でJR京都駅から地区内の竹田駅まで所要時間は約5分。JR京都駅との間を直通するバス「京都らくなんエクスプレス」も運行しており、交通利便性が高い。当地域には、京セラや任天堂などの大企業や、独創的な技術を持つ中小・ベンチャー企業が多数集積している。また、産学公連携による化学分野の研究開発拠点「京都市成長産業創造センター (ACT Kyoto)」では、最先端の産学共同プロジェクトを推進している。京都市は、2015年12月から「らくなん進都」内の鴨川以北のエリアで、工場、研究施設及び事務所が立地する場合の容積率を緩和



し、企業の更なる集積を目指している。また、企業立地を促進するため、地区内の土地所有者が企業に土地を売却、貸付等する場合の「土地所有者奨励金制度」を創設し、2016年度から3年間限定で、売却の場合に奨励金の限度額をこれまでの3倍とするなど制度を拡充している。

らくなん進都に隣接する「横大路地区」には、製造業、物流関連施設が集積。現在、まとまった産業用地の確保に向けて土地区画整理事業が進行中だ。

## 企業立地促進に向けた京都市の取組

「京都市企業立地促進制度補助金」は、新たに本社、工場、開発拠点又は研究所を新增設（賃借を含む）する場合、固定資産税（土地に係るものを除く）及び都市計画税相当額を中小企業は5年間、大企業は2年間補助するもので、2017年度からは、これまでの「らくなん進都」、「横大路地区」、「桂イノベーション地区」の3地域に加え、市南西部の「特定工業専用地域（南区及び伏見区の一部の地域）」において、補助期間を1年延長するなど、更なる企業立地を加速するため、施策を充実させている。

また、京都市が行っている優良企業認定制度によって認定された中小・ベンチャー企業などを対象とした「京都型グローバル・ニッチ・トップ企業育成補助金」は、固定資産税（土地に係るものを除く）及び都市計画税相当額を5年間補助する。

いずれの制度についても、固定資産税（土地に係るものを除く）及び都市計画税相当額に加え、埋蔵文化財発掘調査や特定工業専用地域において雨水流出抑制施設設置に要した経費相当額の交付も盛り込まれている。